

表 2-a 結婚の利点（昭和40年以前生まれ）

	利点あり	利点なし	不詳	合計
男同居	852	215	67	1134
男別居	458	100	17	575
男他	48	35	8	91
女同居	531	158	37	726
女別居	214	56	9	279
女他	23	20	4	47
合計	2126	584	142	2852

表 2-b 結婚の利点の最大の理由（昭和40年以前生まれ）

	経済	社会	安らぎ	好き	家庭	性的	生活	独立	期待	他	不詳	合計
男同居	32	214	241	66	153	6	25	12	94	1	8	852
男別居	12	74	190	51	59	5	31	2	31	0	3	458
男他	2	12	21	2	7	0	1	0	3	0	0	48
女同居	39	62	163	59	97	0	5	10	89	2	5	531
女別居	30	18	87	16	29	0	3	0	28	2	1	214
女他	7	3	5	1	4	0	2	0	1	0	0	23
合計	122	383	707	195	349	11	67	24	246	5	17	2126

表 2-c 結婚の利点の第二の理由（昭和40年以前生まれ）

	理由1のみ	経済	社会	安らぎ	好き	家庭	性的	生活	独立	期待	他	不詳
男同居	53	17	120	121	47	174	22	41	25	224	0	8
男別居	22	9	70	75	42	89	7	51	1	88	1	3
男他	1	0	9	6	1	12	4	10	1	4	0	0
女同居	42	20	64	65	24	130	2	13	32	134	0	5
女別居	16	24	28	37	12	43	1	5	1	44	2	1
女他	2	0	5	8	2	3	0	1	0	2	0	0
合計	136	70	296	312	128	451	36	121	60	496	3	17

表 3-a 結婚の利点（全年齢）

	利点あり	利点なし	不詳	合計
男同居	1933	911	175	3019
男別居	1252	441	30	1723
男他	57	39	13	109
女同居	2088	790	118	2996
女別居	688	216	24	928
女他	33	26	7	66
合計	6051	2423	367	8841

表 3-b 結婚の利点の最大の理由（全年齢）

	経済	社会	安らぎ	好き	家庭	性的	生活	独立	期待	他	不詳	合計
男同居	74	419	613	228	313	7	54	46	152	4	23	1933
男別居	43	127	580	198	163	17	58	6	53	1	6	1252
男他	4	12	22	3	10	0	2	0	4	0	0	57
女同居	140	161	599	448	480	2	24	51	157	9	17	2088
女別居	55	33	274	137	112	0	12	8	49	4	4	688
女他	7	4	8	4	6	0	2	0	1	0	1	33
合計	323	756	2096	1018	1084	26	152	111	416	18	51	6051

表 3-c 結婚の利点の第二の理由（全年齢）

	理由1のみ	経済	社会	安らぎ	好き	家庭	性的	生活	独立	期待	他	不詳
男同居	118	35	225	312	163	408	47	107	88	400	7	23
男別居	52	33	130	239	159	279	44	136	12	160	2	6
男他	2	1	9	8	4	13	4	10	1	5	0	0
女同居	132	87	166	326	215	574	6	35	169	355	6	17
女別居	41	61	39	136	81	195	1	21	4	102	3	4
女他	2	1	5	11	3	6	0	1	0	3	0	1
合計	347	218	574	1032	625	1475	102	310	274	1025	18	51

表 4-a 独身の利点（昭和40年以前生まれ）

	利点あり	利点なし	不詳	合計
男同居	873	173	88	1134
男別居	499	56	20	575
男他	63	20	8	91
女同居	633	55	38	726
女別居	248	19	12	279
女他	35	6	6	47
合計	2351	329	172	2852

表 4-b 独身の利点の最大の理由（昭和40年以前生まれ）

	行動	異性	金銭	住環境	気楽	人間関係	職業	家族	他	不詳	合計
男同居	568	15	140	3	70	50	10	8	4	5	873
男別居	349	5	67	4	41	25	4	1	1	2	499
男他	40	0	5	2	10	6	0	0	0	0	63
女同居	399	5	64	2	31	57	42	28	4	1	633
女別居	188	1	5	0	7	18	21	6	0	2	248
女他	26	0	1	1	0	2	4	0	0	1	35
合計	1570	26	282	12	159	158	81	43	9	11	2351

表 4-c 独身の利点の第二の理由（昭和40年以前生まれ）

合計	理由1のみ	行動	異性	金銭	住環境	気楽	人間関係	職業	家族	他	不詳	合計
852	男同居	76	130	65	212	36	159	148	13	26	3	5
458	男別居	40	72	49	105	44	120	54	9	2	2	2
48	男他	9	12	6	13	2	13	5	2	1	0	0
531	女同居	39	90	17	105	22	73	143	86	53	4	1
214	女別居	17	28	6	32	9	33	69	44	6	2	2
23	女他	4	3	3	3	1	6	6	6	2	0	1
2126	合計	185	335	146	470	114	404	425	160	90	11	11

表 5-a 独身の利点（全年齢）

	利点あり	利点なし	不詳	合計
男同居	2402	394	223	3019
男別居	1513	176	34	1723
男他	72	24	13	109
女同居	2636	234	126	2996
女別居	840	64	24	928
女他	49	8	9	66
合計	7512	900	429	8841

表 5-b 独身の利点の最大の理由（全年齢）

	行動	異性	金銭	住環境	気楽	人間関係	職業	家族	他	不詳	合計
男同居	1476	84	325	15	196	213	33	33	10	17	2402
男別居	1041	48	130	16	133	127	7	4	3	4	1513
男他	42	2	5	2	12	9	0	0	0	0	72
女同居	1541	58	273	17	155	344	122	104	10	12	2636
女別居	572	24	22	9	34	103	52	20	0	4	840
女他	34	0	3	2	2	3	4	0	0	1	49
合計	4706	216	758	61	532	799	218	161	23	38	7512

表 5-c 独身の利点の第二の理由（全年齢）

合計	理由1のみ	行動	異性	金銭	住環境	気楽	人間関係	職業	家族	他	不詳	合計
1933	男同居	190	378	212	480	85	444	458	65	62	11	17
1252	男別居	99	216	200	245	111	337	272	17	10	2	4
57	男他	10	14	6	13	2	16	8	2	1	0	0
2088	女同居	163	391	144	386	76	334	700	238	183	9	12
688	女別居	46	123	52	75	43	120	250	89	34	4	4
33	女他	6	5	4	4	2	7	11	7	2	0	1
6051	合計	514	1127	618	1203	319	1258	1699	418	292	26	38

表 6-a 結婚と独身の利点（昭和40年以前生まれ）

	両方あり	結有独無	結無独有	両方なし	他	計
男同居	705	120	159	52	98	1134
男別居	417	37	79	19	23	575
女同居	491	33	132	22	48	726
女別居	199	10	45	9	16	279
計	1812	200	415	102	185	2714

表 6-b 結婚と独身の利点（全年齢）

	両方あり	結有独無	結無独有	両方なし	他	計
男同居	1677	200	701	191	250	2819
男別居	1154	91	353	84	41	1623
女同居	1947	112	660	120	157	2996
女別居	641	38	189	25	35	928
計	5419	441	1903	420	483	8673

表 7-a 一年以内の結婚の障害の有無（昭和40年以前生まれ）

	障害有	障害無	不詳	結婚しない	計
男同居	451	414	89	180	1134
男別居	258	213	22	82	575
女同居	259	261	35	171	726
女別居	112	81	19	67	279
計	1080	969	165	500	2714

表 7-b 結婚への最大の障害（昭和40年以前生まれ）

	住居	資金	承諾	扶養	学業	仕事	年齢	健康	その他	不詳	計
男同居	86	144	47	72	7	33	27	18	13	4	451
男別居	40	114	25	30	3	21	11	7	4	3	258
女同居	25	60	36	65	1	31	16	15	10	0	259
女別居	8	30	21	11	3	16	8	3	12	0	112
計	159	348	129	178	14	101	62	43	39	7	1080

表 8-a 結婚の年齢志向・理想志向（昭和40年以前）

	時期	理想	不詳	結婚しない	計
男同居	456	472	26	180	1134
男別居	231	252	10	82	575
男他	17	32	3	39	91
女同居	173	368	14	171	726
女別居	61	145	6	67	279
女他	1	14	2	30	47
計	939	1283	61	569	2852

表 8-b 結婚の年齢志向・理想志向（全年齢）

	時期	理想	不詳	結婚しない	計
男同居	1363	1197	56	403	3019
男別居	796	752	22	153	1723
男他	23	35	4	47	109
女同居	1253	1304	42	397	2996
女別居	384	429	10	105	928
女他	8	22	2	34	66
計	3827	3739	136	1139	8841

表 9-a 交際している異性の有無（昭和40年以前生まれ）

	相手なし	友人	恋人	婚約	不詳	計
男同居	637	175	151	49	122	1134
男別居	267	116	121	39	32	575
男他	56	18	8	0	9	91
女同居	372	127	118	40	69	726
女別居	93	69	96	7	14	279
女他	23	11	4	0	9	47
計	1448	516	498	135	255	2852

表 9-a' 友人恋人との結婚の希望（昭和40年以前）

	結婚したい	結婚考えず	不詳	計
男同居	151	163	12	326
男別居	107	127	3	237
男他	7	19	0	26
女同居	95	143	7	245
女別居	54	110	1	165
女他	1	14	0	15
計	415	576	23	1014

表 9-b 交際している異性の有無（全年齢）

	相手なし	友人	恋人	婚約	不詳	計
男同居	1509	566	564	82	298	3019
男別居	810	339	445	63	66	1723
男他	59	21	11	1	17	109
女同居	1236	582	835	119	224	2996
女別居	331	183	356	24	34	928
女他	28	14	9	1	14	66
計	3973	1705	2220	290	653	8841

表 9-b' 友人恋人との結婚の希望（全年齢）

	結婚したい	結婚考えず	不詳	計
男同居	448	656	26	1130
男別居	326	448	10	784
男他	8	23	1	32
女同居	626	762	29	1417
女別居	229	301	9	539
女他	5	18	0	23
計	1642	2208	75	3925

表 10 税込み収入（昭和40年以前生まれ）

	100万未満	100-200万	200-300万	300-400万	400-500万	500-600万	600-800万	800-1000万	1000万以上	不詳	非該当	計
男同居	46	75	208	283	169	80	42	3	7	137	84	1134
男別居	12	18	63	132	152	85	39	5	3	51	15	575
男他	2	5	14	18	22	11	3	1	0	6	9	91
女同居	32	120	184	141	48	15	7	0	1	59	119	726
女別居	15	25	64	66	34	22	14	3	1	19	16	279
女他	2	5	6	11	6	1	4	0	0	5	7	47
計	109	248	539	651	431	214	109	12	12	277	250	2852

3.未婚時の居住状態と結婚行動

大江 守之

1. 分析の枠組み

居住コストが少子化現象に及ぼす影響分析に関する基本的な視点は、結婚及び第1子出産、第2子出産というパリティ拡大に伴って生ずる居住コストの増大が、これらの行動にどのように制約を与えるかという点にある。本稿は、このうち結婚における居住コストの増大を分析対象とする。

近年の出生率低下が、特に20代後半の女性の未婚率の上昇によってもたらされていることは繰り返し指摘されている通りである。これを5年ごとのコーホートでみると、1950年代前半、1950年代後半、1960年代前半、1960年代後半の各コーホートの25～29歳の未婚率は、それぞれ24.0%、30.6%、40.2%、48.0%となっており、未婚率の上昇は1960年代以降のコーホートによって牽引されていることがわかる。つまり、少子化を引き起こしている結婚行動の変化を分析するためには、1960年代以降のコーホートがそれ以前のコーホートとどのように異なるかに着目する必要がある。

1960年代以降のコーホートは、それ以前のコーホートと比較して大都市圏での出生割合が高いという特徴がある。東京圏を例にとると、0～4歳時の東京圏居住割合は、1950年代前半コーホートまでが15%前後であったのに対し、1950年代後半コーホート17.4%、1960年代前半コーホート21.9%、1960年代後半コーホート25.4%と、1960年を境にして大きな開きがある。こうした地域分布の差異から、1960年代以降のコーホートは、それ以前の世代に比べて、大学進学等に際して離家しなければならない割合が低く、その結果として、離家しないまま結婚する割合が高くなっていると考えられる。また、彼らは大都市1世と呼べる親世代が郊外に取得した持家で育つなど、幼少時から豊かな社会を経験した初めての世代とも言える。

居住コストの観点から、離家しないまま結婚する場合と、離家し単独世帯を経験して結婚する場合を比較すると、前者は居住コストがゼロに近い状態から自分自身で居住コストを負担する状態へ移行するとともに居住面積が縮小する可能性が高いのに対し、後者は、夫婦で家賃等を分担すれば居住コストが低下するとともに居住面積の拡大を実現できる可能性がある。つまり、居住コストからみれば、未婚時に親と同居している場合の方が、単独世帯を形成している場合よりも結婚への障壁が高いと考えられる。なかでも1960年代以降のコーホートは、未婚時に親と同居している状態での居住水準が高く、結婚による居住コストの増大が以前の世代に比べてより大きくなるために、未婚率の上昇を招いたという仮説を立てることができる。

そこで本稿では、未婚時の世帯状態別の有配偶への遷移確率を取り上げ、1960年代以降のコーホートとそれ以前のコーホートを比較する。前者は後者より全般に遷移確率が低下するが、その中で、親との同居状態から結婚して新世帯を形成する場合の方が、単独世帯から結婚して新世帯を形成する場合よりも遷移確率の低下が大きい、という仮説を検証しよう。

2. 分析の方法

国勢調査には、男女・年齢・配偶関係別に、単独世帯主、2人以上の世帯主、2人以上の世帯員、施設等の世帯員という世帯属性別の人口を集計した結果表がある。1980年から1995年の4時点について、この表から15～19歳、20～24歳、25～29歳、30～34歳、35～39歳の5つの年齢階層を取り出し、男女別に、配偶関係は未婚、有配偶、死離別の3つに集約し、世帯属性は単独世帯主、2人以上の世帯主、世帯員の3つへと集約する。すなわち、男女・年齢別に、配偶関係と世帯属性の組み合わせで9つのカテゴリーを設定する。

これを行和、列和において、カテゴリー間の遷移確率行列を収束計算によって推定する。初期値には国立社会保障・人口問題研究所が、1998年10月に発表した『日本の世帯数の将来推計（全国推計）』に用いた1995年から2000年の遷移行列（将来推計報告書では「推移行列」と呼ばれる）を利用した。将来推計作業に用いられた推移行列は男子で12カテゴリー、女子で11カテゴリーであるが、それぞれ9カテゴリーに集約した。なお、収束計算は行和、列和の各値が初期値の1%以下になった時点で終了させた。

得られた遷移行列の中から、

男子	未婚単独世帯主	→	有配偶世帯主（2人以上）
	未婚世帯員	→	有配偶世帯主（2人以上）
女子	未婚単独世帯主	→	有配偶世帯員（2人以上）
	未婚世帯員	→	有配偶世帯員（2人以上）

の遷移確率を取り出し、コーホートごとに整理した。

表1 コーホートとピリオドの関係

	15～19歳→ 20～24歳	20～24歳→ 25～29歳	25～29歳→ 30～34歳	30～34歳→ 35～39歳	
1980→ 1985年	0.0492	0.2237	0.3863	0.3229	1950年代前半コーホート
1985→ 1990年	0.0445	0.2415	0.3722	0.2969	
1990→ 1995年	0.0470	0.2480	0.3531	0.2639	1950年代後半コーホート
		1960年代後半 コーホート	1960年代前半 コーホート		

注：セルの数値は、男子の未婚世帯員から有配偶世帯主への遷移確率である。

3. 分析結果

上記の方法による結果は図 1 に示した。

まず男子についてみると、未婚世帯員から有配偶世帯主への遷移確率、つまり親元から結婚して新たな世帯をつくる確率は、どのコーホートもどの年齢層においてもほぼ同様のパターンを示している。1960 年代以降のコーホートが親元から離れにくくなっているという仮説は成り立っていない。一方、未婚単独世帯主から有配偶世帯主への遷移確率、つまり一人暮らしから結婚して新たな世帯をつくる確率は、1950 年代後半コーホートと 1960 年代前半コーホートの間で、20～24 歳→25～29 歳で明確な低下があり、1960 年代以降のコーホートで行動様式が変化したことが示されている。

5.1 で述べた仮説は、1960 年代以降のコーホートでは、一人暮らしよりも親元にいる方が結婚しにくい方向に変化しているというものであったが、実態は逆であることが明らかになった。ただし、25～29 歳→30～34 歳という男子が最も多く結婚する年齢層においては、どのコーホートにおいても一人暮らしの方が親元にいる場合に比べて遷移確率が高く、一人暮らしと親元にいる場合とどちらが結婚しやすいかという点では、依然として一人暮らしという答えになる。

次に女子についてみると、男子とは異なり、一人暮らしでも親元にいる場合でも、ともに 1950 年代後半コーホートと 1960 年前半コーホートの間には明確な差異があり、未婚の世帯状態のいかんにかかわらず、20～24 歳→25～29 歳では有配偶への遷移確率の低下がみられた。しかし、女子が最も多く結婚する 20～24 歳→25～29 歳において、1960 年代前半コーホートの遷移確率の低下は一人暮らしの方で大きい。1960 年代後半コーホートにおいても差は開いており、1960 年代以降のコーホートにおいて一人暮らしよりも親元にいる方が結婚しにくい方向に変化しているという仮説は否定された。結果は逆で、一人暮らしの女子の方が親元にいる女子よりも結婚しにくくなっており、晩婚化を牽引していると言ってよい。また、一人暮らしと親元にいる場合を比較すると、男子とは異なり、遷移確率の絶対的レベルにおいても一人暮らしの方が低い。

以上より、未婚時の世帯状態の違いによる結婚・新世帯形成に伴う居住コストの上昇の差異は、それが大きいほど結婚・新世帯形成に制約を与えるという構造にはなっていないと考えられる。むしろ、一人暮らしを選択した女子は、その生活形態によって得られる自由を継続しようとしていると解釈できる。出生動向基本調査の独身者調査においても、独身生活の最大の利点は「行動や生き方が自由」であるとされ、1997 年調査では女子で 70% がこれを選択している。一人暮らしの居住コストはその自由を得るための必要なコストと認識されていると考えられよう。

図1 コーホート別にみた世帯属性による未婚から有配偶への遷移確率の変化

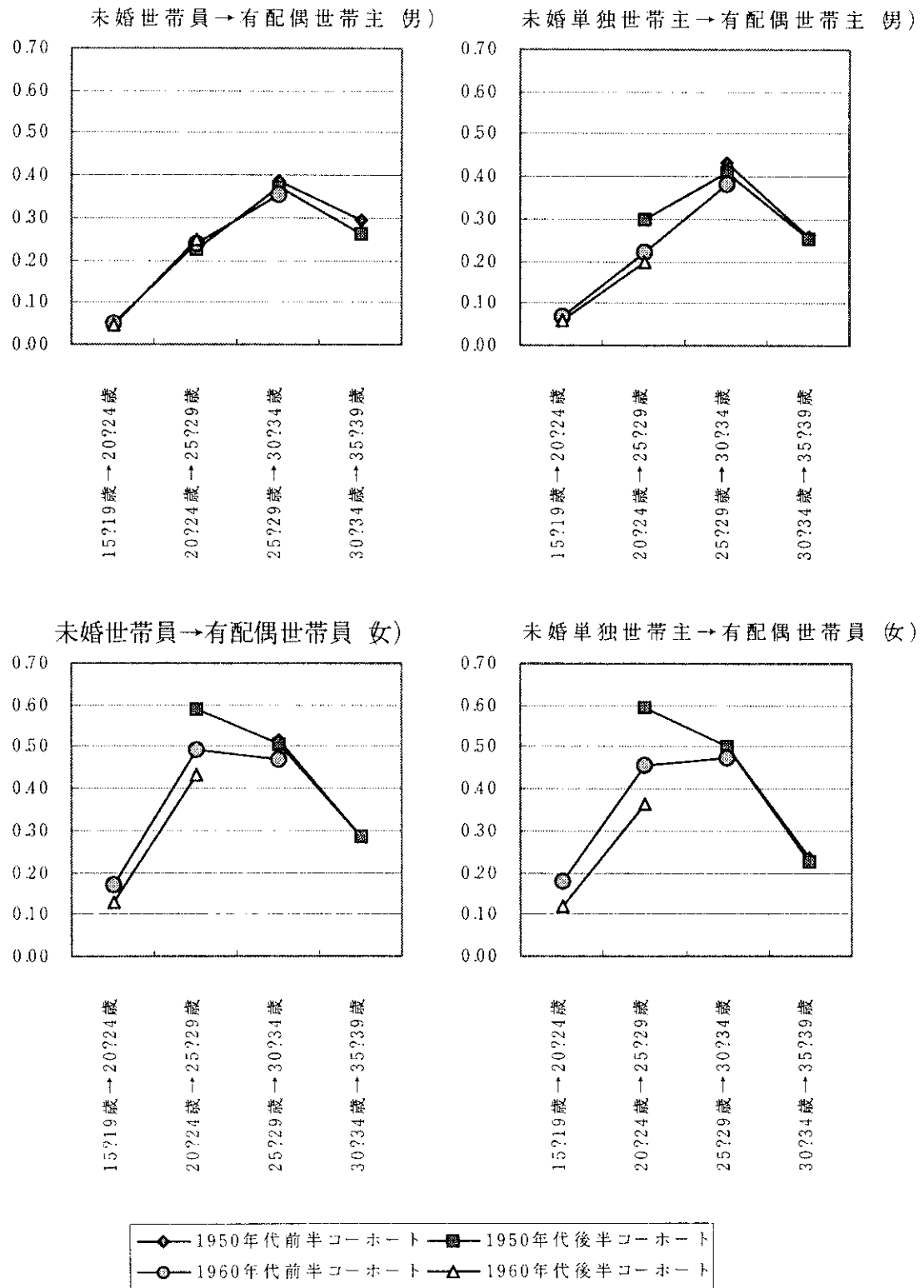


表 遷移確率 (1)

1980~1985年

男	15~19歳								
	S:hS	S:hO	S:nh	M:hS	M:hO	M:nh	W:hS	W:hO	W:nh
S:hS	0.7867	0.1408	0.0000	0.0012	0.0668	0.0000	0.0010	0.0002	0.0000
S:hO	0.9255	0.0000	0.0000	0.0012	0.0689	0.0000	0.0010	0.0002	0.0000
S:nh	0.2406	0.0000	0.6837	0.0013	0.0492	0.0208	0.0003	0.0001	0.0007
M:hS	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.9179	0.0000	0.0778	0.0000	0.0000
M:hO	0.0000	0.0000	0.0000	0.0621	0.8661	0.0000	0.0412	0.0263	0.0000
M:nh	0.0000	0.0000	0.0000	0.0628	0.8765	0.0000	0.0000	0.0000	0.0564
W:hS	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.6625	0.0000	0.3184	0.0000	0.0000
W:hO	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.7267	0.0000	0.0000	0.2542	0.0000
W:nh	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.7285	0.0000	0.0000	0.0000	0.2524

男	20~24歳								
	S:hS	S:hO	S:nh	M:hS	M:hO	M:nh	W:hS	W:hO	W:nh
S:hS	0.6265	0.0661	0.0000	0.0036	0.2976	0.0000	0.0024	0.0005	0.0000
S:hO	0.6823	0.0000	0.0000	0.0037	0.3076	0.0000	0.0024	0.0005	0.0000
S:nh	0.0101	0.0000	0.6300	0.0033	0.2237	0.1244	0.0006	0.0001	0.0041
M:hS	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.9693	0.0000	0.0279	0.0000	0.0000
M:hO	0.0000	0.0000	0.0000	0.0009	0.9713	0.0000	0.0149	0.0100	0.0000
M:nh	0.0000	0.0000	0.0000	0.0004	0.0000	0.9738	0.0000	0.0000	0.0230
W:hS	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.8698	0.0000	0.1107	0.0000	0.0000
W:hO	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.8934	0.0000	0.0000	0.0872	0.0000
W:nh	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.7718	0.0000	0.0000	0.0000	0.2088

男	25~29歳								
	S:hS	S:hO	S:nh	M:hS	M:hO	M:nh	W:hS	W:hO	W:nh
S:hS	0.4465	0.1065	0.0000	0.0072	0.4309	0.0000	0.0039	0.0008	0.0000
S:hO	0.5139	0.0000	0.0000	0.0078	0.4691	0.0000	0.0042	0.0008	0.0000
S:nh	0.0133	0.0000	0.4707	0.0082	0.3863	0.1097	0.0015	0.0010	0.0055
M:hS	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.9760	0.0000	0.0216	0.0000	0.0000
M:hO	0.0000	0.0000	0.0000	0.0029	0.9283	0.0472	0.0115	0.0078	0.0000
M:nh	0.0000	0.0000	0.0000	0.0026	0.0000	0.9556	0.0000	0.0000	0.0393
W:hS	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.9103	0.0000	0.0792	0.0000	0.0000
W:hO	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.9273	0.0000	0.0000	0.0622	0.0000
W:nh	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.8444	0.0000	0.0000	0.0000	0.1451

男	30~34歳								
	S:hS	S:hO	S:nh	M:hS	M:hO	M:nh	W:hS	W:hO	W:nh
S:hS	0.5100	0.2147	0.0000	0.0031	0.2621	0.0000	0.0026	0.0007	0.0000
S:hO	0.6631	0.0000	0.0000	0.0039	0.3222	0.0000	0.0032	0.0008	0.0000
S:nh	0.0340	0.0000	0.5739	0.0049	0.3229	0.0518	0.0020	0.0010	0.0027
M:hS	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.9746	0.0000	0.0224	0.0000	0.0000
M:hO	0.0000	0.0000	0.0000	0.0084	0.9495	0.0158	0.0121	0.0112	0.0000
M:nh	0.0000	0.0000	0.0000	0.0123	0.1739	0.7672	0.0000	0.0000	0.0436
W:hS	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.8320	0.0000	0.1570	0.0000	0.0000
W:hO	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.8240	0.0000	0.0000	0.1650	0.0000
W:nh	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.7932	0.0000	0.0000	0.0000	0.1958

S:hS 未婚单独世帯主 M:hS 有配偶单独世帯 W:hS 死離別单独世帯主
 S:hO 未婚2人以上世帯 M:hO 有配偶2人以上世帯 W:hO 死離別2人以上世帯主
 S:nh 未婚世帯員 M:nh 有配偶世帯員 W:nh 死離別世帯員

表 遷移確率 (2)

1985~1990年

男	15~19歳									
	S:hS	S:hO	S:nh	M:hS	M:hO	M:nh	W:hS	W:hO	W:nh	
S:hS	0.7777	0.1579	0.0000	0.0013	0.0582	0.0000	0.0013	0.0002	0.0000	
S:hO	0.9326	0.0000	0.0000	0.0014	0.0612	0.0000	0.0014	0.0002	0.0000	
S:nh	0.2466	0.0000	0.6884	0.0015	0.0445	0.0146	0.0004	0.0001	0.0006	
M:hS	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.8815	0.0000	0.1142	0.0000	0.0000	
M:hO	0.0000	0.0000	0.0000	0.0756	0.8256	0.0000	0.0601	0.0343	0.0000	
M:nh	0.0000	0.0000	0.0000	0.0789	0.8609	0.0000	0.0000	0.0000	0.0559	
W:hS	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.5655	0.0000	0.4154	0.0000	0.0000	
W:hO	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.6628	0.0000	0.0000	0.3181	0.0000	
W:nh	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.7267	0.0000	0.0000	0.0000	0.2542	

男	20~24歳									
	S:hS	S:hO	S:nh	M:hS	M:hO	M:nh	W:hS	W:hO	W:nh	
S:hS	0.7098	0.0616	0.0000	0.0030	0.2192	0.0000	0.0027	0.0004	0.0000	
S:hO	0.7659	0.0000	0.0000	0.0031	0.2245	0.0000	0.0028	0.0004	0.0000	
S:nh	0.0168	0.0000	0.6507	0.0040	0.2415	0.0787	0.0010	0.0001	0.0036	
M:hS	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.9548	0.0000	0.0424	0.0000	0.0000	
M:hO	0.0000	0.0000	0.0000	0.0010	0.9614	0.0000	0.0228	0.0118	0.0000	
M:nh	0.0000	0.0000	0.0000	0.0007	0.0000	0.9645	0.0000	0.0000	0.0320	
W:hS	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.8195	0.0000	0.1610	0.0000	0.0000	
W:hO	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.8783	0.0000	0.0000	0.1023	0.0000	
W:nh	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.8019	0.0000	0.0000	0.0000	0.1787	

男	25~29歳									
	S:hS	S:hO	S:nh	M:hS	M:hO	M:nh	W:hS	W:hO	W:nh	
S:hS	0.4786	0.0941	0.0000	0.0074	0.4105	0.0000	0.0045	0.0007	0.0000	
S:hO	0.5423	0.0000	0.0000	0.0079	0.4401	0.0000	0.0048	0.0007	0.0000	
S:nh	0.0144	0.0000	0.5079	0.0085	0.3722	0.0859	0.0017	0.0009	0.0045	
M:hS	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.9715	0.0000	0.0261	0.0000	0.0000	
M:hO	0.0000	0.0000	0.0000	0.0031	0.9345	0.0386	0.0140	0.0073	0.0000	
M:nh	0.0000	0.0000	0.0000	0.0035	0.0000	0.9529	0.0000	0.0000	0.0412	
W:hS	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.8951	0.0000	0.0944	0.0000	0.0000	
W:hO	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.9307	0.0000	0.0000	0.0588	0.0000	
W:nh	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.8629	0.0000	0.0000	0.0000	0.1266	

男	30~34歳									
	S:hS	S:hO	S:nh	M:hS	M:hO	M:nh	W:hS	W:hO	W:nh	
S:hS	0.5256	0.2039	0.0000	0.0037	0.2564	0.0000	0.0029	0.0007	0.0000	
S:hO	0.6737	0.0000	0.0000	0.0045	0.3106	0.0000	0.0036	0.0008	0.0000	
S:nh	0.0330	0.0000	0.6034	0.0054	0.2969	0.0491	0.0021	0.0010	0.0024	
M:hS	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.9712	0.0000	0.0258	0.0000	0.0000	
M:hO	0.0000	0.0000	0.0000	0.0101	0.9456	0.0162	0.0139	0.0112	0.0000	
M:nh	0.0000	0.0000	0.0000	0.0145	0.1696	0.7713	0.0000	0.0000	0.0415	
W:hS	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.8123	0.0000	0.1767	0.0000	0.0000	
W:hO	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.8239	0.0000	0.0000	0.1651	0.0000	
W:nh	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.7968	0.0000	0.0000	0.0000	0.1922	

表 遷移確率 (3)

1990~1995年

男	15~19歳									
	S:hS	S:hO	S:nh	M:hS	M:hO	M:nh	W:hS	W:hO	W:nh	
S:hS	0.7806	0.1472	0.0000	0.0009	0.0662	0.0000	0.0015	0.0003	0.0000	
S:hO	0.9252	0.0000	0.0000	0.0010	0.0688	0.0000	0.0016	0.0003	0.0000	
S:nh	0.2300	0.0000	0.7030	0.0010	0.0470	0.0144	0.0004	0.0001	0.0009	
M:hS	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.8790	0.0000	0.1167	0.0000	0.0000	
M:hO	0.0000	0.0000	0.0000	0.0476	0.8440	0.0000	0.0629	0.0412	0.0000	
M:nh	0.0000	0.0000	0.0000	0.0493	0.8753	0.0000	0.0000	0.0000	0.0711	
W:hS	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.5597	0.0000	0.4212	0.0000	0.0000	
W:hO	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.6275	0.0000	0.0000	0.3534	0.0000	
W:nh	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.6825	0.0000	0.0000	0.0000	0.2984	

男	20~24歳									
	S:hS	S:hO	S:nh	M:hS	M:hO	M:nh	W:hS	W:hO	W:nh	
S:hS	0.7357	0.0577	0.0000	0.0024	0.1974	0.0000	0.0030	0.0004	0.0000	
S:hO	0.7896	0.0000	0.0000	0.0024	0.2011	0.0000	0.0031	0.0004	0.0000	
S:nh	0.0198	0.0000	0.6621	0.0037	0.2480	0.0572	0.0013	0.0002	0.0040	
M:hS	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.9446	0.0000	0.0526	0.0000	0.0000	
M:hO	0.0000	0.0000	0.0000	0.0009	0.9536	0.0000	0.0283	0.0143	0.0000	
M:nh	0.0000	0.0000	0.0000	0.0008	0.0000	0.9480	0.0000	0.0000	0.0483	
W:hS	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.7867	0.0000	0.1938	0.0000	0.0000	
W:hO	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.8589	0.0000	0.0000	0.1217	0.0000	
W:nh	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.7894	0.0000	0.0000	0.0000	0.1912	

男	25~29歳									
	S:hS	S:hO	S:nh	M:hS	M:hO	M:nh	W:hS	W:hO	W:nh	
S:hS	0.5228	0.0790	0.0000	0.0072	0.3808	0.0000	0.0053	0.0007	0.0000	
S:hO	0.5814	0.0000	0.0000	0.0075	0.4007	0.0000	0.0056	0.0007	0.0000	
S:nh	0.0161	0.0000	0.5424	0.0084	0.3531	0.0677	0.0021	0.0009	0.0052	
M:hS	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.9647	0.0000	0.0329	0.0000	0.0000	
M:hO	0.0000	0.0000	0.0000	0.0032	0.9362	0.0321	0.0179	0.0081	0.0000	
M:nh	0.0000	0.0000	0.0000	0.0043	0.0000	0.9343	0.0000	0.0000	0.0590	
W:hS	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.8724	0.0000	0.1171	0.0000	0.0000	
W:hO	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.9250	0.0000	0.0000	0.0645	0.0000	
W:nh	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.8399	0.0000	0.0000	0.0000	0.1496	

男	30~34歳									
	S:hS	S:hO	S:nh	M:hS	M:hO	M:nh	W:hS	W:hO	W:nh	
S:hS	0.5509	0.1789	0.0000	0.0045	0.2550	0.0000	0.0033	0.0006	0.0000	
S:hO	0.6840	0.0000	0.0000	0.0053	0.2993	0.0000	0.0039	0.0007	0.0000	
S:nh	0.0309	0.0000	0.6325	0.0058	0.2639	0.0543	0.0022	0.0008	0.0029	
M:hS	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.9679	0.0000	0.0291	0.0000	0.0000	
M:hO	0.0000	0.0000	0.0000	0.0121	0.9385	0.0200	0.0156	0.0108	0.0000	
M:nh	0.0000	0.0000	0.0000	0.0145	0.1405	0.7944	0.0000	0.0000	0.0476	
W:hS	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.7937	0.0000	0.1953	0.0000	0.0000	
W:hO	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.8282	0.0000	0.0000	0.1608	0.0000	
W:nh	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.7414	0.0000	0.0000	0.0000	0.2476	

表 遷移確率 (4)

1980~1985年

女	15~19歳	S:hS	S:hO	S:nh	M:hS	M:hO	M:nh	W:hS	W:hO	W:nh
S:hS	0.6557	0.1580	0.0000	0.0007	0.0013	0.1796	0.0004	0.0015	0.0017	
S:hO	0.8112	0.0000	0.0000	0.0007	0.0013	0.1821	0.0005	0.0015	0.0017	
S:nh	0.1073	0.0000	0.7161	0.0006	0.0012	0.1701	0.0004	0.0014	0.0016	
M:hS	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.9707	0.0279	0.0000	0.0000	
M:hO	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.9568	0.0000	0.0418	0.0000	
M:nh	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.9007	0.0041	0.0165	0.0773	
W:hS	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.9245	0.0648	0.0000	0.0000	
W:hO	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.8940	0.0000	0.0953	0.0000	
W:nh	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.6626	0.0000	0.0000	0.3267	
女	20~24歳	S:hS	S:hO	S:nh	M:hS	M:hO	M:nh	W:hS	W:hO	W:nh
S:hS	0.3447	0.0460	0.0000	0.0014	0.0045	0.5928	0.0013	0.0061	0.0018	
S:hO	0.3815	0.0000	0.0000	0.0014	0.0046	0.6017	0.0014	0.0062	0.0018	
S:nh	0.0066	0.0000	0.3876	0.0014	0.0045	0.5894	0.0013	0.0061	0.0018	
M:hS	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.9799	0.0190	0.0000	0.0000	
M:hO	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.9599	0.0000	0.0390	0.0000	
M:nh	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.9601	0.0034	0.0098	0.0257	
W:hS	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.9111	0.0823	0.0000	0.0000	
W:hO	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.8355	0.0000	0.1579	0.0000	
W:nh	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.8153	0.0000	0.0000	0.1781	
女	25~29歳	S:hS	S:hO	S:nh	M:hS	M:hO	M:nh	W:hS	W:hO	W:nh
S:hS	0.3733	0.0730	0.0000	0.0042	0.0311	0.5041	0.0034	0.0075	0.0012	
S:hO	0.4239	0.0000	0.0000	0.0043	0.0323	0.5246	0.0035	0.0078	0.0013	
S:nh	0.0462	0.0000	0.3851	0.0043	0.0319	0.5179	0.0035	0.0077	0.0013	
M:hS	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.9558	0.0430	0.0000	0.0000	
M:hO	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.9564	0.0000	0.0424	0.0000	
M:nh	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.9626	0.0030	0.0206	0.0125	
W:hS	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.6887	0.3060	0.0000	0.0000	
W:hO	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.6921	0.0000	0.3026	0.0000	
W:nh	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.7732	0.0000	0.0000	0.2215	
女	30~34歳	S:hS	S:hO	S:nh	M:hS	M:hO	M:nh	W:hS	W:hO	W:nh
S:hS	0.6404	0.1448	0.0000	0.0000	0.0000	0.2052	0.0012	0.0036	0.0004	
S:hO	0.7604	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.2293	0.0013	0.0041	0.0004	
S:nh	0.0422	0.0000	0.6570	0.0000	0.0000	0.2891	0.0017	0.0051	0.0005	
M:hS	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.9595	0.0387	0.0000	0.0000	
M:hO	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.9444	0.0000	0.0538	0.0000	
M:nh	0.0000	0.0000	0.0000	0.0013	0.0148	0.9428	0.0040	0.0262	0.0090	
W:hS	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.4687	0.5261	0.0000	0.0000	
W:hO	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.3849	0.0000	0.6099	0.0000	
W:nh	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.6056	0.0000	0.0000	0.3892	

表 遷移確率 (5)

1985~1990年

女	15~19歳	S:hS	S:hO	S:nh	M:hS	M:hO	M:nh	W:hS	W:hO	W:nh
S:hS	0.6579	0.2179	0.0000	0.0006	0.0012	0.1183	0.0004	0.0014	0.0013	
S:hO	0.8660	0.0000	0.0000	0.0007	0.0013	0.1276	0.0005	0.0015	0.0014	
S:nh	0.1230	0.0000	0.7426	0.0007	0.0013	0.1279	0.0005	0.0015	0.0014	
M:hS	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.9576	0.0410	0.0000	0.0000	
M:hO	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.9390	0.0000	0.0596	0.0000	
M:nh	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.8846	0.0059	0.0235	0.0846	
W:hS	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.8957	0.0936	0.0000	0.0000	
W:hO	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.8566	0.0000	0.1327	0.0000	
W:nh	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.6387	0.0000	0.0000	0.3506	
女	20~24歳	S:hS	S:hO	S:nh	M:hS	M:hO	M:nh	W:hS	W:hO	W:nh
S:hS	0.4669	0.0602	0.0000	0.0015	0.0042	0.4566	0.0014	0.0062	0.0016	
S:hO	0.5184	0.0000	0.0000	0.0015	0.0043	0.4650	0.0015	0.0064	0.0016	
S:nh	0.0097	0.0000	0.4778	0.0016	0.0046	0.4949	0.0015	0.0068	0.0017	
M:hS	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.9726	0.0263	0.0000	0.0000	
M:hO	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.9481	0.0000	0.0508	0.0000	
M:nh	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.9524	0.0047	0.0128	0.0291	
W:hS	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.8827	0.1107	0.0000	0.0000	
W:hO	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.7952	0.0000	0.1982	0.0000	
W:nh	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.7951	0.0000	0.0000	0.1983	
女	25~29歳	S:hS	S:hO	S:nh	M:hS	M:hO	M:nh	W:hS	W:hO	W:nh
S:hS	0.3838	0.0712	0.0000	0.0043	0.0233	0.5034	0.0035	0.0069	0.0013	
S:hO	0.4346	0.0000	0.0000	0.0045	0.0242	0.5224	0.0037	0.0072	0.0014	
S:nh	0.0465	0.0000	0.4059	0.0044	0.0234	0.5059	0.0036	0.0069	0.0013	
M:hS	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.9541	0.0447	0.0000	0.0000	
M:hO	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.9597	0.0000	0.0391	0.0000	
M:nh	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.9635	0.0031	0.0190	0.0131	
W:hS	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.6802	0.3145	0.0000	0.0000	
W:hO	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.7092	0.0000	0.2855	0.0000	
W:nh	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.7647	0.0000	0.0000	0.2300	
女	30~34歳	S:hS	S:hO	S:nh	M:hS	M:hO	M:nh	W:hS	W:hO	W:nh
S:hS	0.6350	0.1194	0.0000	0.0000	0.0000	0.2357	0.0013	0.0037	0.0004	
S:hO	0.7334	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.2562	0.0014	0.0040	0.0005	
S:nh	0.0362	0.0000	0.6650	0.0000	0.0000	0.2877	0.0016	0.0045	0.0005	
M:hS	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.9603	0.0379	0.0000	0.0000	
M:hO	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.9501	0.0000	0.0481	0.0000	
M:nh	0.0000	0.0000	0.0000	0.0015	0.0154	0.9450	0.0040	0.0234	0.0090	
W:hS	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.4740	0.5208	0.0000	0.0000	
W:hO	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.4129	0.0000	0.5819	0.0000	
W:nh	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.6072	0.0000	0.0000	0.3876	

表 遷移確率 (6)

1990~1995年

女	15~19歳	S:hS	S:hO	S:nh	M:hS	M:hO	M:nh	W:hS	W:hO	W:nh
S:hS	0.6863	0.1992	0.0000	0.0005	0.0011	0.1080	0.0004	0.0017	0.0017	
S:hO	0.8798	0.0000	0.0000	0.0005	0.0012	0.1135	0.0004	0.0018	0.0018	
S:nh	0.1314	0.0000	0.7417	0.0005	0.0013	0.1197	0.0004	0.0019	0.0019	
M:hS	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.9604	0.0382	0.0000	0.0000	
M:hO	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.9207	0.0000	0.0779	0.0000	
M:nh	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.8445	0.0053	0.0299	0.1190	
W:hS	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.9017	0.0876	0.0000	0.0000	
W:hO	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.8202	0.0000	0.1691	0.0000	
W:nh	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.5469	0.0000	0.0000	0.4424	
女	20~24歳	S:hS	S:hO	S:nh	M:hS	M:hO	M:nh	W:hS	W:hO	W:nh
S:hS	0.5536	0.0637	0.0000	0.0016	0.0042	0.3659	0.0013	0.0067	0.0018	
S:hO	0.6119	0.0000	0.0000	0.0016	0.0043	0.3710	0.0013	0.0068	0.0019	
S:nh	0.0125	0.0000	0.5349	0.0019	0.0050	0.4328	0.0015	0.0079	0.0022	
M:hS	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.9697	0.0292	0.0000	0.0000	
M:hO	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.9323	0.0000	0.0666	0.0000	
M:nh	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.9357	0.0051	0.0167	0.0414	
W:hS	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.8714	0.1220	0.0000	0.0000	
W:hO	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.7458	0.0000	0.2476	0.0000	
W:nh	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.7298	0.0000	0.0000	0.2636	
女	25~29歳	S:hS	S:hO	S:nh	M:hS	M:hO	M:nh	W:hS	W:hO	W:nh
S:hS	0.4078	0.0759	0.0000	0.0047	0.0197	0.4761	0.0036	0.0084	0.0016	
S:hO	0.4630	0.0000	0.0000	0.0049	0.0205	0.4953	0.0037	0.0087	0.0017	
S:nh	0.0487	0.0000	0.4400	0.0046	0.0195	0.4715	0.0035	0.0083	0.0016	
M:hS	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.9513	0.0475	0.0000	0.0000	
M:hO	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.9491	0.0000	0.0497	0.0000	
M:nh	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.9540	0.0033	0.0242	0.0172	
W:hS	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.6664	0.3283	0.0000	0.0000	
W:hO	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.6559	0.0000	0.3388	0.0000	
W:nh	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.7112	0.0000	0.0000	0.2835	
女	30~34歳	S:hS	S:hO	S:nh	M:hS	M:hO	M:nh	W:hS	W:hO	W:nh
S:hS	0.6422	0.1242	0.0000	0.0000	0.0000	0.2238	0.0012	0.0037	0.0005	
S:hO	0.7452	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.2444	0.0013	0.0040	0.0006	
S:nh	0.0385	0.0000	0.6632	0.0000	0.0000	0.2871	0.0016	0.0047	0.0007	
M:hS	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.9612	0.0370	0.0000	0.0000	
M:hO	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.9484	0.0000	0.0498	0.0000	
M:nh	0.0000	0.0000	0.0000	0.0020	0.0163	0.9410	0.0038	0.0241	0.0110	
W:hS	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.4805	0.5143	0.0000	0.0000	
W:hO	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.4043	0.0000	0.5905	0.0000	
W:nh	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.5577	0.0000	0.0000	0.4371	

4. 居住状況と結婚・出産行動

浅見 泰司

瀬川 祥子

1. はじめに

近年の急激な出生率の低下や少子化の進展は社会的な課題であると捉えられ、少子化の要因については数々の研究が行われている。既存の人口学的研究によれば、少子化の大きな要因は女性の社会進出であり、それによって非婚化、晩婚化、無産化（夫婦が子を産まない）、少産化（夫婦が子供を少ししか産まない）の現象が起きている（阿藤(1997)、浅見ほか(1998)）とされている。特に非婚化、晩婚化、とりわけ20代、30代における未婚率の増加（高橋ほか(1996)）が大きな要因であるとされている。

その中で、住宅について、平成4年の出生動向基本調査でも、予定子供数が理想子供数を下回る理由において、大都市では「家が狭いから」の割合が特に高いなど、意識調査の結果からは要因のひとつと考えられている。統計学的には、例えば、家賃が高いと出生率が低くなるという関係（経済企画庁(1992)）や、高い家賃が20代後半と30代前半の女性の出生行動を抑制する働きをもつこと（小椋・ディクル(1992)）などの研究が行われている。また、廣嶋(1994)は東京都下の分析から、厳しい住宅事情のもとで一定の住宅条件を確保するために女性が就業し、そのために女性の結婚年齢が上昇し、結果として有配偶女性一人あたりの出生児数が少なくなると考察している。ただ、大谷(1993)によれば、結婚時の部屋数は予定子ども数、結婚21ヶ月目の累積子ども数との間には正相関があるが、完結出生力との関係は希薄で、住居費の高さが出産を遅らせる効果はあっても、最終的な子供数は減らないと分析している。ただし、完結出生力の算出は、現在の中高年世代の結果をもとにしており、現在の若い世代も同じ選択をするかはわからない。

我が国の住宅事情自体は、一人当たり平均居住面積は年々拡大しているほか、設備水準も向上しており、その中で少子化が進んでいるという事実は、住宅事情が少子化の原因であるという仮説とは矛盾するようにも思える。にもかかわらず、出産意識データにおける住居費負担意識が根強く存在し、統計的分析による相関関係がある事実を、どのように解釈すべきなのだろうか。

本稿では、結婚や子ども数が増えることによる住居費負担の増加を、居住状況の変化という観点から考察する。そこで、特に少子化が進展しかつ住居費負担が重いと推測される東京都において、1990年、1995年の2時点で分析を行う。

2. 結婚と居住状況

東京都に在住する女性について、1990年国勢調査データを用いて結婚と居住状況との関係のみてみる。対象とするサンプルは、25～49歳の東京都在住女性、2,717,399人である¹。その結婚状況は、25～29歳で48.1%と既婚者は半数未満であるが、30～34歳で

注¹ 分析に用いたデータは、アーバンハウジング(1996)の1990年国勢調査を特別に集計した結果である。東京都について、以下の条件を満たす1990年の女性数を求めた。1)本人が世帯主・世帯主の配偶

76.7%、35～39歳で85.9%、40～44歳で89.4%となり、30～34歳の間に急速に既婚者が増える。

結婚には、年齢が大きな影響をもつと考えられるため、25～29歳、30～34歳、35～39歳の3つの年齢階級に分け、それぞれについて、結婚の有無と居住状況との関係を見る。さらに、居住状況以外の世帯の条件と居住状況との影響度をみるために、居住状況に関するデータと居住状況以外の世帯の状況を表すデータを用いてロジット分析を行った。

具体的には、居住状況として、建て方（戸建、低層、中高層）、所有関係（持家、賃貸、給与）、規模（1人あたりの部屋数）、立地（通勤時間0～30分、30～60分、60～90分、90分以上）のデータを用いた。また、世帯状況として、職の有無、親との同居の有無を分析データとした。建て方、所有関係、立地、職の有無、親との同居はダミー変数を用い、基準は戸建、持家、通勤時間0～30分、有職、同居なしとした。

「結婚あり」に対してロジット分析を行なった結果が表1である。全ての年齢階層に共通して最も影響が大きいのは親との同居であり、パラメータは負である。これは結婚によって親とは別の住宅を持つ傾向が現れたものと考えられる。また、住宅規模の1人あたりの部屋数も負に大きく影響しており、結婚によって1人あたりの部屋数は減少する傾向がある。立地では、0～30分の既婚確率が高く、結婚後も有職の既婚女性は職場に近接した住居、もしくは住居に近接した職場を選択しているといえる。

3. 子ども数と居住状況

3.1. 1990年における子ども数と居住状況

出産と住宅事情との関係をより詳しく調べるために、東京都の世帯の中から、夫婦のみまたは夫婦と子供（3人以内）からなり、妻の年齢が25～39歳の世帯を抽出して分析した。住宅の所有状況についてはデータを詳細にした。ただし、住宅の所有状況における「間借り」「その他」、ならびに住居の建て方の「会社等の独身寮・寄宿舎」「その他」はサンプル数が少ないため分析からは除外した。その結果、抽出されたデータは区部で441,114世帯、市部で214,699世帯である。

分析には、居住状況を表すデータとして、建て方について、戸建、低層（長屋、1・2階）、高層（3階以上）、所有関係について、持家、都市区町村の賃貸住宅、住都公団・公社の賃貸住宅、民営賃貸住宅、給与住宅、規模について部屋数、世帯の状況について妻の職の有無を用いた。建て方、所有関係、世帯の状況はダミー変数を用い、基準は戸建、持家、妻無職を用いる。

これらのデータを用いて、区部、市部別、妻年齢5階級別に子ども数を1つづつ増やしてロジット分析を行った。

者・世帯主の子供または世帯主の子供の配偶者のいずれか；2)本人から見て、世帯に親が2人以内、夫が1人以内、子供が3人以内、その他の同居人が3人以内；3)本人の年齢が25歳以上50歳未満。また、子供数は以下のように推定した。1)本人が世帯主またはその配偶者の場合は世帯主の子供数；2)本人が世帯主の子供で未婚の場合は子供数0；3)本人が世帯主の子供で配偶者ありの場合は孫数/既婚子供数の切上値；4)本人が世帯主の子供の配偶者で配偶者ありの場合は孫数/既婚子供数の切上値；5)本人が世帯主の子供で離別・死別の場合は孫数/既婚子供数の切下値；6)本人が世帯主の子供の配偶者で離別・死別の場合は孫数/既婚子供数の切下値。2)の場合はやや過小推計、3～6)の場合は実際よりも平均化された値となる。また、通勤時間については、自宅就業は、通勤時間0-29分に含めた。

建て方についてみると、区部ではパラメータが全て負であり戸建ての場合に子どもを多く持つ確率が高いといえる。この傾向は市部でも同様である。

所有についてみると、全体として、 $0 \rightarrow 1$ 、 $1 \rightarrow 2$ で民営賃貸のパラメータが負となっており、民営賃貸において子どもを産む選択や第2子を産む選択をとる確率が低い、もしくは第1子や第2子を出産した段階で民営賃貸以外の所有へ移行する結果であると推測される。また、公営賃貸、公団・公社賃貸で正となっているのは、子どもあり世帯でこれらの住宅に入居しやすい影響があらわれているものと推測される。

部屋数については、全てにおいてパラメータは正であり、部屋数が多いほど子ども数も増える確率が高いといえる。また、35～39歳の $0 \rightarrow 1$ 、 $1 \rightarrow 2$ でパラメータ値が比較的高く、年齢が高い層で、子どもを持つか、第2子を産むかの選択に住宅規模を考慮していると推測される。

職の有無についてみる。区部の25～29歳では、 $0 \rightarrow 1$ で負、 $1 \rightarrow 2$ 、 $2 \rightarrow 3$ で正となっており、第1子出産の時に退職し、その後復職している影響が表れているといえる。市部も同様の傾向となっている。30～34歳では、 $1 \rightarrow 2$ 、 $2 \rightarrow 3$ で5%水準で棄却されており、子どもを産むか産まないかの選択と職の有無は影響があるものの、第2子、第3子の選択と職の有無には関係がみられないといえる。35～39歳では、 $0 \rightarrow 1$ 、 $2 \rightarrow 3$ で負、 $1 \rightarrow 2$ で正となっている。これは、ほぼ出産終了年齢に入り、「子どもが二人欲しい」という志向を持つ人は第2子出産後、復職していると考えられる。一方、第3子を持ちたいという志向を持つ人は専業主婦を選択する傾向が強いのではないかと推測される。なお、モデル全体の適合度をみると、区部・市部別の各年齢階層ごとに子ども数が増えるにしたがって適合度が下がっている。つまり、今回モデルに使用した居住状況と妻の職の子ども数に対する影響は、第1子を産むかどうかの選択に一番大きく係わっており、第2子、第3子の選択になるにつれ居住状況や職の影響は少なくなっていると推測される。また、第1子のモデルについて、年齢が上がるにつれ適合度が下がっており、早い時期に第1子を産むことに居住状況や職の影響が大きいと推測される。さらに、第1子では、市部よりも区部が適合度が高く、区部において、より居住状況や職の影響が大きいと推測される。

3.2. 1995年における子ども数と居住状況

次に同様の分析を1995年についても行う。しかし、1995年国勢調査については、1990年の分析に用いたような詳細なデータは公表されていない。そこで、以下の手順でデータを推定した。

1990年の国勢調査集計表（アーバンハウジング、1996）では、東京都区部・市部に関して以下の集計が出ている。東京都に居住する核家族世帯のうち、夫婦および子供が0～3人の世帯について、妻年齢の5歳階級別（20～24歳、25～29歳、30～34歳、35～39歳、40～44歳）、子供人数別（0人、…、3人）、妻の職の有無別、住宅の建て方別（戸建、低層共同、中高層共同、他）、所有関係別（持家、公営、公団公社賃貸、民間借家、給与住宅、他）、室数別（1室、…、9室、10室以上）の世帯数が集計されている。そこで、1995年国勢調査に関して公表されている集計表に適合するように、1990年の国際調査集計データを変換して、IPF法（=Iterative Proportional Fitting Method. Deming and Stephan (1940); Bishop, Fienberg and Holland (1975); 浅見・木戸(1998)参照。）を用い

て1995年における詳細集計表を推計する。

その大まかな推計方法は以下の通りである。

- 1) 1990年の詳細集計データを初期値に設定する。
- 2) 1995年の集計データ（詳細集計データの周辺分布となる）をもとに、詳細集計データの値をそれぞれ定数倍して合計値が周辺分布に合うように調整する。
- 3) これをすべての集計データについて行う。
- 4) 2)～3)の作業を、周辺分布と推計集計値との差が0.5未満になるまで繰り返す。
- 5) 収束した場合に終わりとする。

実際に利用した1995年の国勢調査集計表は以下の通りである。

- (1) 3次集計表：妻年齢×家族類型×子供の有無数年齢（表番号9-2）
- (2) 3次集計表：家族類型×子供の有無年齢×夫婦の就業（表番号12-2）
- (3) 1次集計表：家族類型×所有×建て方（表番号39-2）
- (4) 1次集計表：家族類型×室数（表番号43）

これらの集計表では、家族類型の取り方が、1990年の詳細集計のものと異なる。核家族世帯には片親家族も含まれるが、1990年の詳細集計では含まれていない。また、欠損値存在などの理由で、世帯全数が異なる場合がある。整合性のない周辺分布で推計することはできないため、全数に不整合がある場合は、3次集計表の全数に合うように定数倍した。また、初期値としての詳細集計データにおいて、欠損しているデータはすべて1を初期値とした。初期値を0にすると、上記の補正手法では0のままになってしまうためである。

上記の推定法を実際に行ったところ、上記4)の収束条件では完全には収束しなかった。そこで、十分な回数の繰り返し計算を行った後にその相対誤差を計算したところ、おおむね1%未満（ひとつだけ2%弱で他はすべて区部市部とも0.62%未満）であり、実用上は問題ないと判断し、それを分析に用いることとした。完全に収束しない理由としては、周辺分布が総数のみを合わせただけで、完全には整合的でなかったことが大きいと思われる。

その結果、区部424,258世帯、市部219,286世帯からなる分析データを得た。このデータを用いて、1990年と同様に、区部、市部別、妻年齢5階級別に子ども数を1つつ増やしてロジット分析を行う。

建て方についてみると、区部では5%水準で棄却される場合が多く、建て方は大きな要因でない可能性が指摘できる。優位な場合では、30～34歳の1→2と2→3、35～39歳の1→2、2→3である。これらの時のパラメータの符号は負であり、30歳以上において、戸建ての場合に、第2子、第3子を産む選択をする確率が高いといえる。市部では、35～39歳の0→1以外は5%水準で全て有意である。パラメータをみると、全ての年齢階級において子ども数が0→1の時には正であり、1→2、2→3で負となっている。これは第1子を産む予定で市部の戸建てに転居し、まだ第1子が誕生していない世帯や、第1子が生まれた後に戸建てに移る世帯の影響が推測される。また、第2子、第3子を産む選択をする確率は戸建ての場合に高いといえる。

所有についてみる。区部では0→1、1→2の場合、民営のパラメータが負となっており、公営賃貸、公団・公社賃貸で第1子、第2子を選択する確率が高く、民営賃貸で低い

といえる。2→3では、パラメータは全て正であり、持ち家以外の所有形態で第3子出産の選択率が高いという結果になっている。これは第1子、第2子誕生時点で持ち家に移っている世帯が多いためと推測される。所有については市部でも同様の傾向であるといえる。

部屋数については、全てにおいてパラメータは正であり、部屋数が多いほど子ども数も増える確率が高いといえる。特に区部では1→2、2→3に比べて0→1でパラメータ値が大きく、子どもを持つ、持たないの選択に住宅規模が影響していることが示唆される。市部では、30～34歳の0→1、35～39歳の0→1、1→2でパラメータ値が比較的高く、年齢があがるにつれ、子どもを持つか、第2子を産むかの選択に住宅規模を考慮していると推測される。

職の有無についてみる。区部の25～29歳では、0→1で負、1→2、2→3で正となっており、第1子出産の時に退職し、その後復職している影響が表れているといえる。市部も同様の傾向となっている。30～34歳では、1→2、2→3で5%水準で棄却されており、子どもを産むか産まないかの選択と職の有無は影響があるものの、第2子、第3子の選択と職の有無には関係がみられないといえる。35～39歳では、0→1、2→3で負、1→2で正となっている。これは、ほぼ出産終了年齢に入り、「子どもが二人欲しい」という志向を持つ人は第2子出産後、復職していると考えられる。一方、第3子を持ちたいという志向を持つ人は専業主婦を選択する傾向が強いのではないかと推測される。

なお、モデルの適合度については1990年と同様の傾向となっている。

3.3. 1990年と1995年における子ども数と居住状況の変化について

建て方について、1995年では、5つの変数が5%水準で棄却されたが、1990年では、5%水準で棄却されるのは、25～29歳1→2の低層と35～39歳0→1の低層のみであり、住宅の建て方の子どもの数に与える影響が減少している可能性が推測できる。

所有では、1995年において給与住宅は全般にパラメータは正であり持ち家よりも子ども数が多い傾向にある。しかし1990年では、区部25～29歳0→1、1→2、市部25～29歳0→1、30～34歳0→1でパラメータが負であり、子どもを出産し持ち家に移行するという行動があったのではないかと推測される。

住宅規模では、全般に1995年よりも1990年ではパラメータ値が小さく、住宅規模が子ども数に与える影響は強くなっていることが推測される。

職の有無について、1995年と1990年は同様の傾向を示しており、年齢階層毎に特徴がみられるが、コーホートの女性の行動形式が変容しているというよりは、それぞれの年齢に特徴的な傾向であるといえる。ただし、子ども数0→1において1995年と1990年を比較するとパラメータの絶対値は小さくなっており、「第1子出産→退職」という図式は弱まる傾向にあることが推測される。

適合度については、1995年と1990年は同様の傾向を示しているが、1990年の方が概して適合度がよく、1990年において一層居住状況や職の状況が子ども数と関係していたと推測される。

4. おわりに

本稿では、女性の年齢別に結婚、出産、子ども数の増加というライフステージごとに

居住状況との関係を分析した。その結果、戸建において子ども数をより多く選択する確率が高いこと、民営賃貸において子どもを少なくする、または持たない選択をする確率が高いこと、公営・公団等の住宅において子どもを持つ、または子どもを多く持つ選択をする確率が高いこと、部屋数が多い方が子供を持つ、子ども数を多く持つ選択をする確率が高いこと、特に第1子の出産や年齢層が高い場合に部屋数の影響が強いことなどが明らかになった。ただし戸建という住宅の建て方については、1990年よりも1995年は影響が弱まっており、「子どもを持つ＝戸建てに住む」といった意識が薄れつつある可能性がある。また、女性の職の有無については、第1子の出産において無職であることが出産の確率を高くしている。しかし、職の有無の影響も1990年と1995年を比較すると弱まっており、女性が職の有無に係わらず出産できる環境が整いつつあることがうかがえる。

参考文献

- 阿藤誠(1997)「日本の超少産化現象と価値観変動仮説」『人口問題研究』53(1), 3-20.
- アーバンハウジング(1996)「中高齢単身世帯の居住実態調査報告書」
- 経済企画庁(1992)『平成4年度国民生活白書』
- 小椋正立, ロバート・ディクル(1992)「1970年以降の出生率の低下とその原因 ― 県別, 年齢階層別データからのアプローチ」『日本経済研究』22, 46-76.
- 厚生省人口問題研究所(1993)「平成4年第10回出生動向基本調査第1報告書 日本人の結婚と出産」
- 厚生省人口問題研究所(1994)「平成4年第10回出生動向基本調査第2報告書 独身青年層の結婚観と子供観」
- 大谷憲司(1993)『現代日本出生力分析』関西大学出版部.
- 廣嶋清志(1981)「現代日本の育児環境と出生力」『人口問題研究』158, 11-45.
- 高橋重郷ほか(1996)「将来人口推計の評価と見直しについて」『人口問題研究』52(3/4), 32-47.
- 竹内啓(1963)『数理統計学』東洋経済新報社.
- 廣嶋清志(1994)「大都市地域の住宅事情が出生率に及ぼす影響: 東京都区市 1985年, 1990年の観察」『都市住宅学』6, 10-17.
- Bishop, Y.M.M., S.E. Fienberg and P.W. Holland (1975) *Discrete Multivariate Analysis: Theory and Practice*, MIT Press, Cambridge, MA.
- Deming, W.E. and F.F. Stephan (1940) "On a Least Square Adjustment of a Sampled Frequency Table When the Expected Marginal Totals Are Known" *Ann. Math. Stat.*, 11, 427-444.
- アーバンハウジング(1996)「平成2年国勢調査に基づく中高齢単身者の居住実態調査」, (財)アーバンハウジング.
- 浅見泰司, 木戸浩司(1998)「国勢調査住宅関連統計のIPF法による度数分布表推計の精度: 東京大都市圏を例として」『日本建築学会計画系論文報告集』514, 185-189.

表 1 結婚と居住状況

		25～29歳	30～34歳	35～39歳
建て方	低層	-1.241	-1.496	-1.735
	中高層	-0.432	-0.425	-0.540
所有	賃貸	-1.261	-1.621	-1.720
	給与	-0.049	0.138	0.265
立地	30～60分	-0.965	-1.202	-1.294
	60～90分	-0.749	-1.049	-1.256
	90分以上	-0.647	-0.967	-1.195
規模	1人部屋数	-1.196	-1.886	-2.257
世帯状況	無職	1.510	1.198	0.778
	親同居	-4.231	-3.707	-3.300

(係数については、斜字体以外は1%有意)

表 2 1990年分析に利用したデータの分布状況

区部					
子ども数					
	0	1	2	3	合計
25～29歳	52,902	39,892	21,841	3,002	117,637
30～34歳	34,679	42,870	63,665	14,323	155,537
35～39歳	23,166	32,236	86,470	26,068	167,940
計	110,747	114,998	171,976	43,393	441,114

市部					
子ども数					
	0	1	2	3	合計
25～29歳	23,267	20,397	12,000	1,631	57,295
30～34歳	12,192	19,462	33,691	8,109	73,454
35～39歳	7,486	13,887	47,147	15,430	83,950
計	42,945	53,746	92,838	25,170	214,699